

ニューロナースの疑問に答える！

脳神経疾患画像診断レクチャー

疾患の基礎知識、画像を見るときのポイントなど
脳神経疾患画像にまつわるナースの素朴な疑問に
1問1答形式でズバットお答えします！



企画編集・執筆

土屋一洋 (杏林大学医学部 放射線医学教室 准教授)

つちや・かずひろ：1980年 北海道大学医学部卒業、
同年 東大附属病院 放射線科 研修医、1981年 同 助
手、1984年 公立昭和病院 放射線科 科長、1985年
防衛医科大学校 放射線医学教室 助手、1993年 杏林
大学医学部 放射線医学教室 講師を経て、2000年よ
り同 助教授 (2007年より准教授)。

第1回

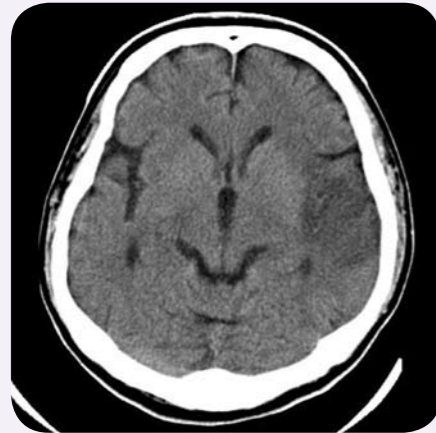
脳梗塞

① 急性期梗塞

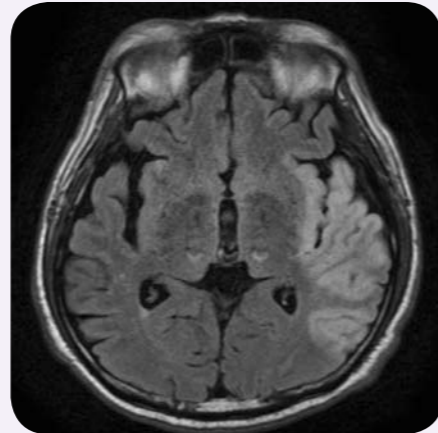
症例 49歳の男性

発症3週間後の左中大
脳動脈領域の梗塞

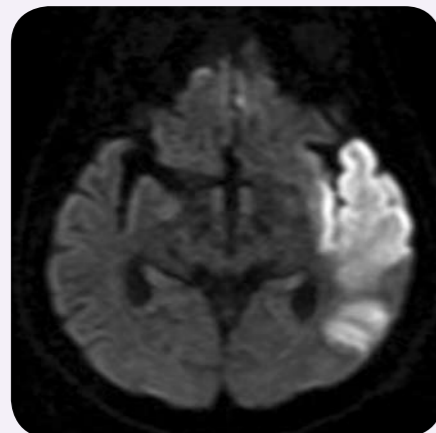
単純CT



MRIのFLAIR像

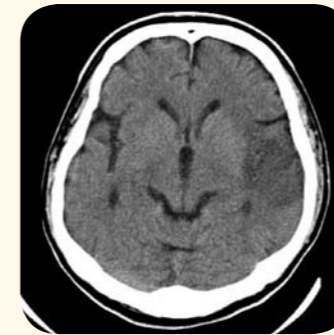


MRIの拡散強調像



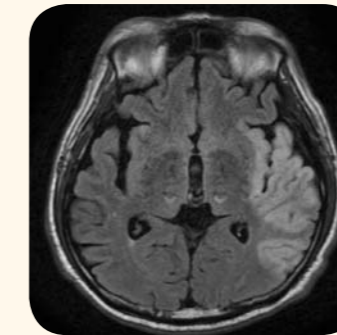
画像所見

単純CT



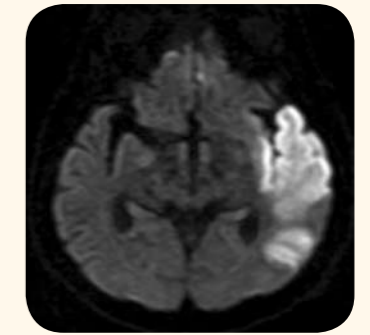
左の側頭葉弁蓋部に腫
脹傾向を伴う低吸収が
ある。

MRIのFLAIR像



病変は高信号を示す。

MRIの拡散強調像



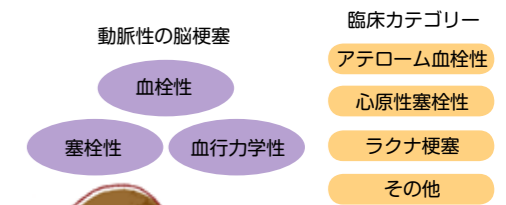
病変はかなりの高信号
を示している。

Q1



脳梗塞とはどういう病態ですか？

脳の血流（主に動脈系）の障害により、脳組織が不可逆的なダメージを受けた状態をいいます。動脈性の脳梗塞は、機序から血栓性、塞栓性、血行力学性に分類されます。臨床的なカテゴリーとして、アテローム血栓性、心原性塞栓性、ラクナ梗塞、その他に分けられます。



Q2

脳梗塞の一般的な症状は？

脳のなかで傷害された部位によって、症状は多彩です。一般に塞栓性の場合には突然に発症しますが、アテローム血栓性ではしばしば症状が緩徐に進行します。片麻痺、片側の感覚障害、言語障害、めまい、失調などが代表的ですが、脳幹梗塞や、大脳の広汎な梗塞では意識障害もみられます。急性期には病変の拡大によってこれらが急に増悪することがあり、患者のケアのうえで注意が必要です。

